

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

岡山理科大学大学院

令和6年3月

岡山理科大学大学院

教職課程認定 研究科・専攻（免許校種・免許教科）一覧

（2021(令和3)年度～2022(令和4)年度）

- ・ 理学研究科
 - 応用数学専攻（中専・高専 数学）
 - 化学専攻（中専・高専 理科）
 - 応用物理学専攻（中専・高専 理科）
 - 総合理学専攻（中専・高専 数学）（中専・高専 理科）
 - 生物化学専攻（中専・高専 理科）
 - 臨床生命科学専攻（中専・高専 理科）
 - 動物学専攻（中専・高専 理科）
- ・ 工学研究科
 - 応用化学専攻（中専・高専 理科）
 - 機械システム工学専攻（中専 技術、高専 工業）
 - 電子工学専攻（中専 技術、高専 工業）
 - 情報工学専攻（中専 技術、高専 工業）
 - 知能機械工学専攻（中専 技術、高専 工業）
 - 建築学専攻（高専 工業）
- ・ 総合情報研究科
 - 情報科学専攻（中専・高専 数学）
- ・ 生物地球科学研究科
 - 生物地球科学専攻（中専・高専 理科）

大学院としての全体評価

岡山理科大学では、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し 技術者として社会人として 社会に貢献できる人材を養成する」とする建学の理念のもと、1964年創立当初から理科・数学の教員免許状を取得する教職課程が設置され、今日では毎年 300 名を超える学生が教員免許状を取得し、教員採用では 2020 年度卒生の中学校教員採用者数（臨時的任用含）が全国 5 位、2023 年度実施の教員採用候補者選考試験で 206 名（既卒者含）の合格者を輩出するまでになっております。こうした中、教育職員免許法施行規則 第 22 条の 8 において、認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教員組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果の公表が求められることになったことから、この教職課程自己点検・評価活動を本学の教職課程のさらなる質の向上を図って学校教育への更なる貢献を目指す機会と捉え、全学的な教職課程を実施する組織である教職支援センターが中心となり教職課程の質保証に取り組むことといたしました。

さて、本学の教職課程における社会的使命は、教職課程を履修する学生が教育のあるべき姿を認識し、教職および学校の意義や目的、学校教育やこれを取り巻く諸条件の現状と課題、児童生徒の心身の発達やその近年における変化の実態等に対する関心を高めるとともに理解を深め、自らの適性と所属学科の専門分野の学修を踏まえて、小学校または中学校、高等学校の教員としての豊かな教養を身につけ、教科に関する広くて深い専門的知見を有し、実践的指導力を備えられる教員を輩出することとしております。

この本学の社会的使命を踏まえつつ、一般社団法人全国私立大学教職課程協会が作成した「教職課程自己点検・評価基準」の評価項目を参考に本学の自己評価基準項目を作成し、教

職課程を自己評価することとしました。学長は大学としての全体評価の責任者、教職課程の全学的組織である教職支援センターは企画と各学部報告書の集約等、教学支援部は根拠となる資料・データの作成等の事務及び企画課、教育企画課との調整等、学科長は「教職課程に関する自己点検・評価報告書作成シート」を作成、学部長は学科毎に作成された「教職課程に関する自己点検・評価報告書作成シート」に基づき、学部報告書「Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価」を作成するという役割分担で組織を編成しました。

2022年度は、本学の各学部の教職課程（2020～2021年度）について点検・評価を行いました。その結果、学部の専門教育科目を活かして、教員を目指す学生の実践力を養う目的で、教職課程科目以外に理数系教員養成プロジェクト科目学部共通科目として開講し組織体制を確立していたり、公立の工業高等学校と協議の場を設定し工業高等学校教員を目指す育成の在り方についての確認を実施していたりするなど、本学の教職課程は概ね適切に運用できていると考えられました。一方、複数教科免許状や学芸員資格取得の際のキャップ制を踏まえた教職課程や、学科の特色を踏まえた「育成を目指す教師像」の定義、教職課程の積極的なPR、基本的な教職課程の仕組みに関する全学FD・SDに課題があると捉えられました。

2023年度は、学部の教職課程自己点検・評価から見えた課題改善の方策をまとめた「教職課程改善アクション・プラン」の策定、大学院の教職課程（2020～2021年度）の点検・評価を行いました。大学院の教職課程自己点検・評価では、「各研究科が教職支援センターと連携することにより、GIGAスクール構想への対応等の取り組みが大学院生にも適用され、教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みが実施されている。」「指導教員が適宜面談や学修相談を行って、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握し、教職を目指す学生の確保・育成・キャリア支援に努めている。」「コアカリキュラムを踏まえ、各研究科の特性を生かした科目を教職課程の専門科目として指定し、専攻科目の系統性を確保しながら、バランスのよい教職課程カリキュラムを編成できている。」など、本院の教職課程は概ね適切に運用できていると考えられました。

一方、教職課程をテーマとした全学FDの機会が少ない、専攻独自に教職課程担当を配置していない、教職に就いている修了生とのつながりが少ない、などの課題があると捉えられました。

2024年度からは、これらの課題を改善し、教員採用試験合格者の実践的指導力の質保証などの教員養成の一層の改善を進めることで、「教員を目指すなら岡山理科大学」という教職課程のブランド化を進め、教職を担うべき適切な人材（学生）のさらなる確保を図る所存です。

岡山理科大学
学長 平野 博之

目次

I 教職課程の現況及び特色	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	3
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	8
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	12
III 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	18
IV 現況基礎データ一覧	20
V 岡山理科大学の自己評価基準項目	21

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

岡山理科大学大学院は、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を養成する」を建学の理念とし、1974（昭和49）年に理学研究科修士課程を設置して開学した。2023（令和5）年度の大学院研究科の改組により、現在は、1研究科2専攻を設置しているが、改組前は理学研究科、工学研究科、総合情報研究科、生物地球科学研究科の4研究科15専攻が設置されていた。本年度の自己点検・評価の対象となる教職課程は、改組前の各研究科の教職課程である。

本学の教職課程は、建学の理念、大学の教育研究上の目的及び学部のポリシーに基づいて設置されている。2019（令和元）年に教職課程を担う全学的な組織として「教職支援センター」を設置し、教職を目指す学生に対して一元的に支援する体制を築いている。教職支援センターは、教職課程の運営等に関する企画及び運営、教職課程や学生指導についての基本方針や共通的事項に関する業務、学外の機関・組織等との連携に関する事務的な業務、学校管理職経験、教育行政勤務経験を有する専任教員による教員採用試験対策指導等を担っている。下図に、岡山理科大学の教職課程運営組織図を示す。

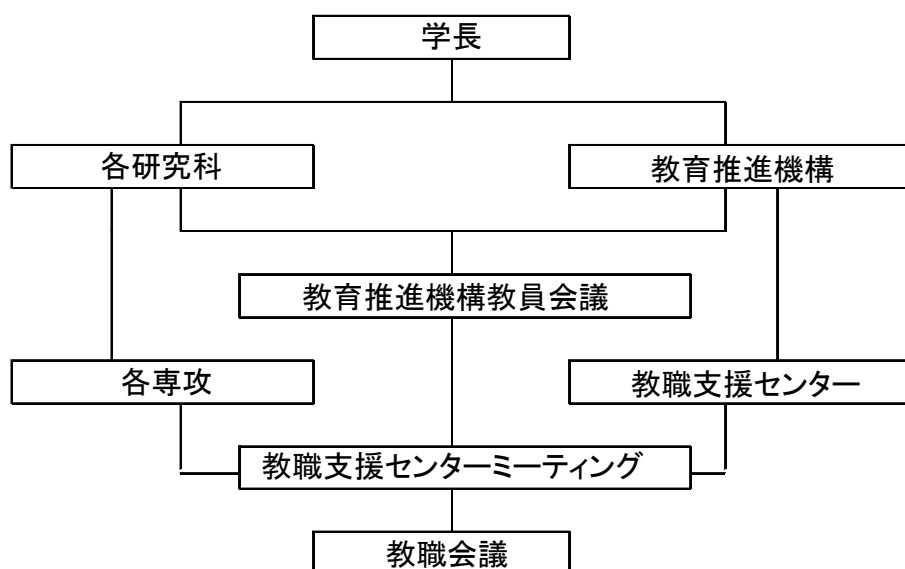


図1 「岡山理科大学大学院教職課程運営組織図」

<資料・データ等>

- ・岡山理科大学 HP トップページ (<https://www.ous.ac.jp/>)
- ・岡山理科大学教学資格課 (<http://career.office.ous.ac.jp/kyousyoku/>)
- ・岡山理科大学 HP 「教員養成に係る組織及び教員の数」
(<https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/teacherplan2/>)

(1) 大学院名：岡山理科大学大学院

(2) 研究科名：理学研究科、工学研究科、総合情報研究科、生物地球科学研究科

(3) 所在地：岡山県岡山市北区理大町1-1

(4) 学生数及び教員数（令和5年5月1日現在）

学生数：教職課程履修 18名／大学院全体 212名

教員数：教職課程科目担当 170名／学部全体 210名

2 特色

本学大学院の教職課程の特色は、4点挙げられる。

第1に、研究者として博士号（教育学等）の学位を有するとともに、教育委員会事務局指導主事、教育センター指導主事等の教育行政や学校管理職の実務経験を有する教員が多数在籍している点である。教育研究と教職経験豊富な教員達が、教員養成段階の学生に対して理論と実践を融合した講義、実習・演習系科目、教員採用試験対策指導等を行っている。

第2に、専門性の高い教員を養成するカリキュラムである。本学大学院では開放性の教職課程の利点を生かし、各専攻での研究と併せて教職課程を履修することができる。学生が研究に取り組むことで得られる高い専門性と研究能力を生かし、教科を探究的に指導する能力を備えた教員の育成に取り組んでいる。

第3に、教職支援センター相談室を設置している点である。1点目とも関連するが、本学には学校管理職経験、教育行政での勤務経験を有する教員が教職支援センター相談室に常駐しており、学期中・長期休業期間中を問わず、学生の教職課程履修指導、教員採用試験対策（面接対策等）、教職キャリア形成に関する相談業務を行っている。また、教職支援センター相談室と連携しながら、教職課程担当教員も面接練習、模擬授業指導、小論文指導、エントリーシート作成指導等を組織的に行っている。

第4に、教職支援センター主催の「教職シンポジウム」を開催している点である。教職シンポジウムの前身は「理数教育研修講演会」であり、2003（平成 20 年度）～2021（令和 2）年度の17回に渡り、小・中・高等学校の学習指導要領の策定や教育研究に携わっておられる文部科学省や大学の関係者を講師として招聘し、今後の理数教育の方向性についてご講演いただいていた。2022（令和 3）年度以降は、理数教育だけでなく、「指導と評価の一体化」「令和の日本型学校教育」などのテーマを取り上げている。岡山県内、全国の教育関係者、学生も含めた学内関係者が参加しており、幅広い参加者に研修機会を提供している。

以上のように、教員養成を担う人材及び施設整備に力を入れるとともに、学生が研鑽を積むための学習機会が幅広く設けられている点が本学大学院の特色である。

Ⅱ－1 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

① 教職課程教育の目的・目標の設定

全学的な「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教員養成の目的・目標を設定し公表している。

② 教職課程教育の目的・目標の周知

入学後のオリエンテーションにおいて、資料（「教職・学芸員課程履修の手引」）を配布し、教職課程教育の目的・目標を、資料の該当箇所を示しながら説明して学生へ周知している。資料の巻頭言では、教職を目指す学生の心構えを語っている。大学として定めている「卒業認定・学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」についても資料を示しながら口頭で学生に説明して周知している。

③ 育成を目指す教師像に向けた教職課程教育の計画的な実施

理学研究科では、各専攻において目指す教員養成の目標を設定し、教職科目についてはそれぞれのシラバスに基づき関係教員が教職課程教育を計画的に実施している。

工学研究科では、育成を目指す教師像として、全学的な「卒業認定・学位授与の方針」に示されている教職課程の目的・目標を共有している。

生物地球科学研究科では、動物学、植物学、地学、天文学等学科の専門科目を教員免許取得のために必要な科目として設定し、基礎的な科目からより専門性のある科目まで計画的に教職課程教育を実施している。

④ 教職課程教育が目指す学修成果（ラーニング・アウトカム）

理学研究科では、教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）は、「教育の目標と方針」において学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針によって具体的に示されている。

工学研究科では、育もうとする学修成果について、具体的な可視化はできていない。

生物地球科学研究科では、大学が定め公表している「教育の目標と方針」「教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）」により学生に周知している。

〔長所・特色〕

① 教職課程教育の目的・目標の設定

特記事項なし

② 教職課程教育の目的・目標の周知

特記事項なし

③ 育成を目指す教師像に向けた教職課程教育の計画的な実施

理学研究科応用数学専攻では、数学全般にわたる幅広い学識をもつ教員、総合理学専攻では自然科学全般にわたる広い知識と実習体験をもつ教員の育成を目標としている。

工学研究科建築学専攻では、岡山県立岡山工業高等学校長と建築学科主任、入試担当とでミーティングを行い、工業高校教員を目指す育成の在り方についての確認を実施している。

④ 教職課程教育が目指す学修成果（ラーニング・アウトカム）

特記事項なし

〔取り組み上の課題〕

① 教職課程教育の目的・目標の設定

法令・制度等事項の遵守状況は公表できていない。

② 教職課程教育の目的・目標の周知

『教育の目標と方針—岡山理科大学で学ぶこと—』と『教職課程・学芸員課程履修の手引』を入学生に配付しているが、教職課程教育の目的・目標の周知は教職支援センター主催のオリエンテーションに依存しており、研究科としての学生への周知は十分ではない。

③ 育成を目指す教師像に向けた教職課程教育の計画的な実施

工学研究科では、各専攻における具体的な「育成を目指す教師像」は明確にできていない。

④ 教職課程教育が目指す学修成果（ラーニング・アウトカム）

工学研究科では、学修成果が多く項に分かれて示されているため、学修成果の明示方法について検討する必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 『大学院要覧 2021 年版』
- ・資料 1-1-2 『大学院要覧 2022 年版』
- ・資料 1-1-3 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2022 年度版』
- ・資料 1-1-4 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2023 年度版』
- ・資料 1-1-5 : 「教育の目標と方針—岡山理科大学で学ぶこと」

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

① 教職員の配置と組織体制（基準項目）

理学研究科では、教職支援センターと協働することにより、教職課程教育において研究者教員、実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

工学研究科では、各専攻において教職課程認定基準を踏まえた教員を配置しており、月に一度の会議などを通して、教職支援センターと連携しながら教職課程教育を実施している。

生物地球科学研究科では、実務経験のある教員を配置し、それ以外の教員との協同体制を取っている。また、教職支援センター員の教員を配置し、事務職員との連絡を取りながら教職課程教育を実施している。

② 学科と学部組織との協働

理学研究科では、月に一度の教職支援センターミーティングに理学研究科教員が出席し、全学的な教職課程教育に関する情報共有をおこない、研究科の教職課程担当教員と教職支援センター教員とで適切な役割分担を図っている。

工学研究科では、全学組織である教職支援センターの会議に工学研究科の教職課程担当者が出席し、適切な役割分担を行っている。

生物地球科学研究科では、教職支援センター員の教員を配置し、全学的な教職課程運営に関する情報共有・調整を進めている。

③ 教職に係る履修指導や ICT 環境教育の状況

理学研究科では、教職支援センターと連携することにより、それらが整備されていると考える。

工学研究科では、各専攻において入学後に実施される新入生オリエンテーションなどを通じて、学科チューターより専門科目や教職科目に関する履修指導を実施している。

生物地球科学研究科では、全学的な教職支援センター相談室、GIGA スクール構想への対応を意識した設備の教採演習室を利用している。

④ 教職課程の質的向上のための FD や SD などによる PDCA について

理学研究科では、全学的な授業評価アンケートの活用や教職に関する FD、SD への教員の積極的な参加など、教職課程の質的向上を目指した取り組みをおこなっている。また、カリキュラム・アセスメント・チェックなどの結果も適宜活用している。

工学研究科では、授業評価アンケートを通して教育課程関連科目の改善を行っている。FD および SD に関する情報を共有して教育改善に取り組んでいる。

総合情報研究科では、授業評価アンケートを行っている。

生物地球科学研究科では、教員免許取得のために必要な科目として設定されている専門科目では、授業評価アンケートを活用して教職課程科目の質向上に努めている。また、大学が実施する FD 講演会、SD 講演会等に積極的に教員が参加している。

⑤ 教職課程に関する情報公開の状況

理学研究科では、教職課程に関するカリキュラムや科目内容および進路実績等の情報について、大学のホームページにて公表している。

工学研究科では、本学ホームページにて、教職課程教育の学習モデルや学生の進路・就職実績、在学生の平素の学修の様子など諸々の情報を公開・発信している。

生物地球科学研究科では、教学支援部、教職課程 HP 等を通して、教職課程に関する情報公表を行っている。

⑥ 全学組織との協働による自己点検・評価

理学研究科では、昨年度実施した理学部の教職課程に関する自己点検評価、さらに今年度実施する理学研究科の教職課程に関する自己点検評価の結果を基に、教職課程の在り方を再検討する予定である。

工学研究科では、全学組織である教職支援センターと教職課程認定を受けた専攻が連携し教職課程の改善を目的とした自己点検を行う予定である。

生物地球科学研究科では、昨年度実施した生物地球学部の教職課程に関する自己点検評価や今回の生物地球科学研究科の自己点検を構成員間で共有しながら行っている。

[長所・特色]

① 教職員の配置と組織体制（基準項目）

工学研究科では、建築学専攻では、学科構成教員の半数以上が実務家教員で占められているのが特徴である。

② 学科と学部組織との協働

特記事項なし

③ 教職に係る履修指導や ICT 環境教育の状況

理学研究科では、応用数学専攻や総合理学専攻では、母体学科の持つ計算機室で GIGA スクール構想に対応した教育が可能である。

④ 教職課程の質的向上のための FD や SD などによる PDCA について

工学研究科では、『岡山理科大学教育実践研究』における教育実践報告等の FD 活動を推進している。

⑤ 教職課程に関する情報公開の状況

特記事項なし

⑥ 全学組織との協働による自己点検・評価

特記事項なし

[取り組み上の課題]

① 教職員の配置と組織体制（基準項目）

特記事項なし

② 学科と学部組織との協働

工学研究科では、各専攻の教職課程担当者間での密接な連携が必要である。

③ 教職に係る履修指導や ICT 環境教育の状況

特記事項なし

④ 教職課程の質的向上のための FD や SD などによる PDCA について

全学的に教職課程をテーマとしたFDの機会が少ない。

⑤ 教職課程に関する情報公開の状況

特記事項なし

⑥ 全学組織との協働による自己点検・評価

特記事項なし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1 『大学院要覧 2021 年版』
- ・資料 1-2-2 『大学院要覧 2022 年版』
- ・資料 1-2-3 「教職支援センターミーティング資料」
- ・資料 1-2-4 「岡山理科大学教育実践研究」
- ・資料 1-2-5 岡山理科大学ホームページ (<https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/>)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を踏まえた学生の募集や選考等の実施

理学研究科では、「入学者受け入れの方針」を踏まえた学生の募集や選考を行っている。また、新入生オリエンテーションや所属研究室におけるオリエンテーションで、本専攻で学ぶに相応しい学生像について説明している。

工学研究科では、「入学者受入の方針」に基づき、学生の募集や選考を行い、オープンキャンパスや入試説明会等のガイダンスで教職に関する説明を実施している。

生物地球科学研究科では、アドミッションポリシーで示した資質をもった入学生の受け入れができています。

② 教職に適性のある学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準

理学研究科では、修了することを最優先とした上で、専修免許状の取得を目指す学生には教職科目を適切に履修することを指導教員が呼びかけています。

工学研究科では、修了に必要な授業科目を十分に履修できることを前提に教職科目を履修するよう呼びかけています。

総合情報研究科では、大学ホームページ、大学院要覧・大学院入学者選抜要項にアドミッションポリシーを記載しています。

生物地球科学研究科では、教職課程の継続については、基本的に大学の方針に従い、学生本人の意思を尊重しています。

③ 「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた適切な規模の履修学生の受け入れ

理学研究科では、「学位授与の方針」及び担当教員数を踏まえて、適切な規模の履修学生を受け入れています。

工学研究科では、「卒業認定・学位授与の方針」及び教員組織の規模を踏まえて、適切な規模の入学生を受け入れています。

生物地球科学研究科では、研究科の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえ、指導教員が修了に必要な授業科目を優先するよう個別に指導しています。

④ 「履修カルテ」を活用した教職指導

「教職履修カルテ」に入力・活用する環境が整えられており、学期ごとの教職課程履修オリエンテーションへの参加と履修カルテ作成を促しています。「履修カルテ」を活用した教職指導については教職支援センターと連携することにより適切に行われています。

〔長所・特色〕

① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を踏まえた学生の募集や選考等の実施

生物地球科学研究科では、フィールドワークを主な研究手段とした自然科学分野の知識の学習に興味を持ち、教育研究を遂行する意思を有する学生を募集・選考しています。

② 教職に適性のある学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準

工学研究科では、学期毎に指導教員が修得単位数の確認を実施している。

- ③ 「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた適切な規模の履修学生の受け入れ
理学研究科の応用数学専攻では数学全般にわたる幅広い学識をもつ教員、総合理学専攻では自然科学全般にわたる広い知識と実習体験をもつ教員の育成を目標としている。
- ④ 「履修カルテ」を活用した教職指導
特記事項なし。

[取り組み上の課題]

- ① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を踏まえた学生の募集や選考等の実施
特記事項なし。
- ② 教職に適性のある学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準
工学研究科では、新入年春学期の成績等を見極めてから教職課程の履修に進むなど、基準については十分な検討が必要である。
- ③ 「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた適切な規模の履修学生の受け入れ
特記事項なし。
- ④ 「履修カルテ」を活用した教職指導
特記事項なし。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 『大学院要覧 2021 年版』
- ・資料 2-1-2 『大学院要覧 2022 年版』
- ・資料 2-1-3 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2022 年度版』
- ・資料 2-1-4 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2023 年度版』
- ・資料 2-1-5 「教育の目標と方針—岡山理科大学で学ぶこと」
- ・資料 2-1-6 「岡山理科大学オープンキャンパスガイド」

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

- ① 教職への意欲や適性の把握について
理学研究科では、指導教員が適宜面談や学修相談をおこなって学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握するよう努めている。
工学研究科では、個別面談や学修相談を通して、指導教員が学生の教職への意欲や適性の把握に努めている。
生物地球科学研究科では、必要に応じて指導教員が対応している。

② キャリア支援センター・学習支援センター・教職支援センター相談室等によるキャリア支援について

理学研究科では、学生のキャリア支援に関しては、母体学科のキャリア形成委員による情報提供や指導教員の対応とともに、キャリア教育センターや教職支援センター相談室等の支援を受けられるよう学生に促している。

工学研究科では、必要に応じて各センターと相談して学生への対応を行っている。

生物地球科学研究科では、特に実施していない。

③ 教職向けの各種情報の提供について

理学研究科では、教職に就くための各種情報は、教職支援センターとの協働やオリエンテーション等で提供している。

工学研究科では、全学的な教職オリエンテーションで教職に関する情報を提供している。

生物地球科学研究科では、特に実施していない。

④ 教員免許状取得件数・教員就職率を高めるための実務家教員を中心とした工夫について

理学研究科では、教職支援センターとの連携にて対応している。

工学研究科では、現在、校長や教頭、主幹教諭等および教育行政経験の実務家教員を専任教員として配置していない。

生物地球科学研究科では、特に実施していない。

⑤ キャリア支援充実を目的とする同窓会・教育委員会との連携について

理学研究科では、教職支援センターとの連携にて対応している。

工学研究科では、キャリア支援充実を目的とする同窓会、教育委員会との連携は行っていない。

生物地球科学研究科では、特に実施していない。

〔長所・特色〕

① 教職への意欲や適性の把握について

特記事項なし。

② キャリア支援センター・学習支援センター・教職支援センター相談室等によるキャリア支援について

特記事項なし。

③ 教職向けの各種情報の提供について

特記事項なし。

④ 教員免許状取得件数・教員就職率を高めるための実務家教員を中心とした工夫について

特記事項なし。

⑤ キャリア支援充実を目的とする同窓会・教育委員会との連携について

特記事項なし。

〔取り組み上の課題〕

① 教職への意欲や適性の把握について

工学研究科では、教職に就こうとする学生数に対して専攻独自に教職課程担当を配置していないため指導が行き届きにくい場合がある。

② キャリア支援センター・学習支援センター・教職支援センター相談室等によるキャリア支援について

特記事項なし。

③ 教職向けの各種情報の提供について

工学研究科では、教職支援センターとの情報共有が必ずしも十分ではない。

④ 教員免許状取得件数・教員就職率を高めるための実務家教員を中心とした工夫について

特記事項なし。

⑤ キャリア支援充実を目的とする同窓会・教育委員会との連携について

工学研究科では、教職に就いている修了生との直接的なつながりは少ないため、交流会などの開催を考えていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 『大学院要覧 2021 年版』
- ・資料 2-2-2 『大学院要覧 2022 年版』
- ・資料 2-2-3 「教職オリエンテーション資料」

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

① 建学の理念を具現化する特色ある教育課程について

理学研究科では、それぞれの専攻で数学、理科、情報のいずれかもしくは複数の専修免許状を取得可能とし、建学の理念を具現する特色ある教職課程教育を行っている。

工学研究科では、建学の理念及び「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、幅広い分野で活躍できる社会人基礎力養成の中に教員養成を包括するかたちの教育課程を編成している。

生物地球科学研究科では、幅広い学問分野について、フィールドワークを重視した教育研究を行っており、その特徴を生かした教職課程教育を実施している。

② コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムの編成について

理学研究科では、研究科の目標を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の研究科科目との系統性の確保はできている。

工学研究科では、コアカリキュラムを踏まえ、教員育成に必要な科目を教職課程の専門科目として指定し、カリキュラムツリーによって専攻科目の系統性を確保しながら、バランスよく教職課程カリキュラムを編成している。

生物地球科学研究科では、研究科のカリキュラムポリシーを重視し、教職課程科目についてもそこから外れないように配慮したカリキュラムを編成している。

③ 今日の学校教育に対応する内容上の工夫について

工学研究科では、全学的に開催される教学委員会において、各学科で検討されたカリキュラムの変更・工夫内容などが情報共有・審議されることで、定期的に学校教育の現状を共有している。これらを踏まえて、カリキュラムの編成・実施を検討している。

生物地球科学研究科では、生物地球学部、及び生物地球科学研究科の特色として、全国から入学生が集まっており、卒業生も全国で教員をしていることから、特定の都道府県教育委員会が策定する教員育成指標に沿った内容の実施は行っていないが、現在の学校教育に対応した内容上の工夫を各教員が行っている。

④ 情報活用能力育成に向けての指導について

理学研究科では、主に特別研究において ICT 機器を活用した研究活動が行われている。

工学研究科では、情報活用能力育成の観点から、各学科で特色ある ICT 機器を用いた科目を設定し、実践力を養成している。また、修士研究では、配属された研究室の PC を常時利用することが可能である。

生物地球科学研究科では、主に ICT 機器を活用した研究活動（特別研究）が数多く行われている。

⑤ 課題発見や課題解決など力量の育成

理学研究科では、アクティブ・ラーニングやグループワークを促す科目についてはシラバスに明記されている。また、特別研究の中でそれらを促すことで課題発見や課題解決等の力量を育成している。

工学研究科では、アクティブ・ラーニングやグループワークを促進する科目についてはシラバス上に明記され、それらの科目履修を通して課題の発見や解決する力を育成している。

生物地球科学研究科では、各学生が研究活動の中でアクティブ・ラーニングを実践している。

⑥ 各教科の学修内容や評価方法などの学生への掲示について

理学研究科では、教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法について明確に示している。また、各授業の初回においてそれらを口頭でも明確に伝えている。

工学研究科では、各科目のシラバスにて、学習内容や評価方法を明確に示している。また、これらの内容がシラバス上で明確に記載されているか否かについて、毎年シラバスチェックを実施している。

生物地球科学研究科では、全ての教職課程科目について、学習内容や評価方法等を学生に明確に示している。

⑦ 教育実習について

工学研究科では、「教職・学芸員課程履修の手引」の「岡山理科大学教育実習の履修に関する申合せ」にて、「教育実習Ⅰ・Ⅱ」を受講するための履修要件を定めている。

生物地球科学研究科では、特に実施していない。

⑧ 「教職実践演習」の指導における「履修カルテ」の活用について

理学研究科では、教職支援センターとの連携にて対応している。

工学研究科では、教職オリエンテーションにて履修カルテの作成を指示するとともに、定期的な履修カルテの点検を通じた指導を進めている。

生物地球科学研究科では、特に実施していない。

〔長所・特色〕

① 建学の理念を具現化する特色ある教育課程について

理学研究科応用数学専攻では数学と情報、総合理学専攻では数学、理科および情報の専修免許状を取得できるため、複数免許状の取得を目指す学生も在籍している。

生物地球科学研究科では、本学科で展開されているカリキュラムにもとづき修得した知識と経験は、さまざまな社会問題の解決に貢献しうる次世代の育成に大きく貢献しうる。

② コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムの編成について

工学研究科建築学専攻では、高等学校教育科目(工業)の上位内容にあたる科目を相当数用意し、それらから選択可能となるように編成している。また、実務家教員による演習科目を充実させたカリキュラムで編成している。

生物地球科学研究科では、学科の特徴である、フィールドワークを重視した幅広い分野の教育を生かした教職課程を編成している。

③ 今日の学校教育に対応する内容上の工夫について

生物地球科学研究科では、正課外活動（生物地球学部コアミュージアムや恐竜学博物館での普及活動など）のなかで、学生と教員による学術的知見や研究成果の発信と社会への還元を積極的に行っている。

④ 情報活用能力育成に向けての指導について

特記事項なし。

⑤ 課題発見や課題解決など力量の育成

工学研究科では、アクティブ・ラーニングやグループワークについては、全学的にその対応科目がシラバス上に明記されている。

⑥ 各教科の学修内容や評価方法などの学生への掲示について

工学研究科では、学習内容や評価方法については、全学的に教員間で毎年シラバスチェックを行い、これらが明確に書かれているか否か点検している。

⑦ 教育実習について

特記事項なし。

⑧ 「教職実践演習」の指導における「履修カルテ」の活用について

特記事項なし。

〔取り組み上の課題〕

① 建学の理念を具現化する特色ある教育課程について

工学研究科では、全学的なキャップ制に関する議論を進めており、キャップ制を踏まえた修得すべき単位・科目について検討が必要である。

生物地球科学研究科では、教職課程も含め適切な学修環境を整えるために、さらなるカリキュラムの充実と見直しが求められる。

② コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムの編成について

特記事項なし。

③ 今日の学校教育に対応する内容上の工夫について

工学研究科では、今後は教員育成指標も踏まえてカリキュラム編成を検討する必要がある。

生物地球科学研究科では、本学科の正課外活動は、博物館や科学館等、教育研究機関で実践されており、今後、教職課程履修生がより高みを目指せるよう学修機会の創出が求められる。

④ 情報活用能力育成に向けての指導について

特記事項なし。

⑤ 課題発見や課題解決など力量の育成

工学研究科では、探究型授業は各科目で検討しているが、学生が実際に探究を経験する機会は少ないため、各科目内でその機会を増やすことが課題である。

⑥ 各教科の学修内容や評価方法などの学生への掲示について

特記事項なし。

⑦ 教育実習について

特記事項なし。

⑧ 「教職実践演習」の指導における「履修カルテ」の活用について

特記事項なし。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1 『大学院要覧 2021 年版』
- ・資料 3-1-2 『大学院要覧 2022 年版』
- ・資料 3-1-3 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2022 年度版』
- ・資料 3-1-4 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2023 年度版』
- ・資料 3-1-5 「教学委員会議事録」
- ・資料 3-1-6 「シラバス作成ガイドライン」

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力の育成について

理学研究科では、必要に応じて特別研究の指導教員が行っている。

工学研究科では、各学科で開講する実験実習科目を中心として、指導補助のアシスタントを大学院生に経験させ、実践的指導力を育む機会を設けている。

生物地球科学研究科では、必要に応じて指導教員が対応している。

② 様々な体験活動とその振り返りの機会

理学研究科では、必要に応じて特別研究の指導教員が行っている。

工学研究科では、ボランティア、インターンシップ等の体験活動の機会を設けている。

生物地球科学研究科では、必要に応じて指導教員が対応している。

③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情を理解する機会

工学研究科では、岡山理科大学附属高等学校との高大連携を通して、高校教育の現状を知る機会が継続的に設けられている。その他、岡山県産業振興技財団が主催する「おもしろ体験でえ〜」への参加を通して、地域の子どもの興味関心を知る機会を設けている。加えて、岡山県下の工業高校との高大連携を行っている。

理学研究科、総合情報研究科、生物地球科学研究科では、特に実施していない。

④ 全学組織教職支援センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制

理学研究科では、教職支援センターとの連携にて対応している。

工学研究科では、各専攻において、独自の組織的な連携協力体制は構築できていない。

総合情報研究科、生物地球科学研究科では、特に実施していない。

⑤ 全学組織教職支援センター等と教育実習協力校との連携

理学研究科では、教職支援センターとの連携にて対応している。

工学研究科では、各教育実習協力校ならびに岡山理科大学附属学校と密に連携を図っている。加えて、岡山県下の工業高校との高大連携を行っている。

総合情報研究科、生物地球科学研究科では、特に実施していない。

〔長所・特色〕

① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力の育成について

工学研究科では、情報工学専攻では、コンピュータを利用した学科の演習科目に対して、指導補助のアルバイトを募集している。参加学生に対しては、採用時に研修会を実施し、指導する立場に対する気づきを促している。また、学期の終わりに指導の振り返りを課し、実践的指導力に関するより深い学びが得られるようにしている。

② 様々な体験活動とその振り返りの機会

特記事項なし。

③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情を理解する機会

工学研究科では、岡山県産業振興技財団が主催する「おもしろ体験でえ〜」に参加し、地域の子どもの興味関心を知る機会を設けている。

理学研究科、総合情報研究科、生物地球科学研究科では、特に実施していない。

④ 全学組織教職支援センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制

特記事項なし。

⑤ 全学組織教職支援センター等と教育実習協力校との連携

特記事項なし。

〔取り組み上の課題〕

① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力の育成について

特記事項なし。

② 様々な体験活動とその振り返りの機会

特記事項なし。

③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情を理解する機会

特記事項なし。

④ 全学組織教職支援センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制

特記事項なし。

⑤ 全学組織教職支援センター等と教育実習協力校との連携

特記事項なし。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2022 年度版』
- ・資料 3-2-2 『教職課程 学芸員課程 履修の手引 2023 年度版』
- ・資料 3-2-3 「おもしろ体験でえ〜」チラシ
- ・資料 3-2-4 「岡山県高等学校工業教育協会と岡山理科大学の高大連携に関する協定書」
- ・資料 3-2-5 「第 1 回附属高等学校との高大連携教育推進委員会 議事録」

Ⅲ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

- 2021年10月23日 中国・四国地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2021年度秋季研究協議会
(自己点検・評価担当者参加)
- 10月27日 令和3年度第3回教職支援センターミーティング(中私教協参加報告の共有)
- 2022年2月24日 カリキュラム・アセスメント・チェックシート(教職課程版)作成
- 3月11日 教育推進機構カリキュラム・アセスメント・チェック(CAG)(自己点検・評価担当者参加)
- 4月20日 令和4年度第1回教職会議
- 4月27日 令和4年度第1回教職支援センターミーティング(大学第1プロセス)
内容:「教職課程の自己点検・評価」の報告書作成と公開方法について説明
- 5月18日 令和4年度第2回教職会議
- 5月25日 令和4年度第2回教職支援センターミーティング(大学第2プロセス)
内容:今後のスケジュール及び作成方法についての確認
- 5月27日 一般社団法人全国私立大学教職課程協会 第41回研究大会(自己点検・評価担当者参加)
内容:点検・評価方法の検討①
- 6月15日 令和4年度第3回教職会議
- 6月22日 令和4年度第4回教職会議
- 7月20日 令和4年度第4回教職支援センターミーティング(大学第3プロセス)
内容:自己点検・評価方法の検討③(根拠資料の抽出)
- 8月24日 令和4年度第5回教職会議
- 8月31日 令和4年度第5回教職支援センターミーティング(大学第4プロセス)
内容:教職支援センターと各学部代表委員による自己点検・評価実施手順の最終確認、
発出文書準備
- 9月21日 令和4年度第6回教職会議
- 9月28日 令和4年度第6回教職支援センターミーティング(大学第5プロセス)
内容:自己点検・評価の進捗状況報告
- 10月5日 令和4年度第6回教育推進機構会議
内容:教職課程「自己点検・評価」に関する説明会、Q&A、作成分担
- 10月12日 令和4年度第7回教職会議
- 10月17日 教職課程自己点検・評価 オンライン説明会①
- 10月26日 令和4年度第7回教職支援センターミーティング(大学第5プロセス)
内容:自己点検・評価の進捗状況報告
- 11月5日 一般社団法人全国私立大学教職課程協会 2022年度 教職課程運営に関する研究交流集会
- 11月22日 教職課程自己点検・評価 オンライン説明会②
- 11月9日 令和4年度第8回教職会議
- 11月30日 令和4年度第8回教職支援センターミーティング(大学第5、6プロセス)
内容:自己点検・評価の進捗状況報告、報告書作成に向けた意見交換
- 12月3日 中国・四国地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2022年度秋季研究協議会
(自己点検・評価担当者参加)
- 12月14日 令和4年度第9回教職会議
- 12月21日 令和4年度第9回教職支援センターミーティング(大学第6、7プロセス)
内容:報告書作成に向けた意見交換、報告書を基礎としたアクション・プラン策定に向
けた協議
- 2023年1月11日 令和4年度第10回教職会議
- 1月25日 令和4年度第10回教職支援センターミーティング(大学第6、7プロセス)
内容:報告書完成に向けた意見交換、報告書を基礎としたアクション・プラン策定協議
- 2月8日 令和4年度第11回教職会議
- 2月22日 令和4年度第11回教職支援センターミーティング(大学第7プロセス)
内容:報告書完成版の確認と掲載方法の確認、アクション・プラン策定に向けた協議
- 2月28日 令和4年度第11回教育推進機構会議(報告)
- 3月8日 令和4年度第12回教職会議

- 3月下旬 『令和4年度 教職課程自己点検・評価報告書』公開
- 5月20日 全私教協令和5年度研究大会にて自己点検評価に向けた取り組みを発表
発表者：藤本義博（教職支援センター長）、伊代野淳（理学部長）、
皿田琢司（自己評価点検主担当）
- 6月14日 令和5年度第3回教職会議
- 6月28日 令和5年度第3回教職支援センターミーティング（大学院 第1、2プロセス）
（教職支援センターと各研究科・専攻代表委員による自己点検評価実施手順の確認、取りまとめ担当者選出依頼、実施の依頼）
- 7月19日 令和5年度第4回教職会議
- 7月 執行部に学部学科の自己点検評価の方法や進め方に準じて、大学院の教職課程自己点検評価の必要性について確認
- 7月26日 令和5年度第4回教職支援センターミーティング（大学院 第3プロセス）
（自己点検評価報告書の様式配付、取りまとめ担当者決定、自己点検評価開始）
- 9月 課程認定を受けている修士課程各研究科・専攻の自己点検評価実施について大学協議会で連絡
- 9月6日 令和5年度第5回教職会議
- 10月11日 令和5年度第7回教職会議
- 10月25日 令和5年度第5回教職支援センターミーティング
（大学院 第4プロセス：自己点検評価の進捗状況報告、意見交換、質疑応答）
（大学 第7プロセス：各学科の特色を踏まえた「育成を目指す教師像」の定義を依頼、教職シンポジウムのFDとしての実施、複数免許状や学芸員資格取得の際のキャップ制を踏まえた教職課程の検討、教員採用試験の早期実施への対応）
- 11月8日 令和5年度第8回教職会議
- 11月16日 自己点検評価実施の詳細を提示して依頼（大学院 第4、5プロセス）
- 11月18日 全私教協2023年度「教職課程運営に関する研究交流集会」（自己点検・評価担当者参加）
- 12月13日 令和5年度第9回教職会議
- 12月20日 令和5年度第6回教職支援センターミーティング（大学院 第5プロセス）
（自己点検評価の進捗状況報告、報告書作成に向けた意見交換、質疑応答）
- 1月10日 令和5年度第10回教職会議（自己点検評価報告書案を協議）（大学院 第5プロセス）
- 1月24日 令和5年度第7回教職支援センターミーティング（大学院 第5プロセス）
（自己点検評価報告書案の検討、意見交換、質疑応答）
- 2月14日 令和5年度第11回教職会議
- 2月21日 令和5年度第8回教職支援センターミーティング
（大学院 第5プロセス：自己点検評価報告書案、意見交換、質疑応答）
（大学 第7プロセス：アクション・プラン案の検討、意見交換、質疑応答）
- 3月13日 令和5年度第12回教職会議
- 3月27日 令和5年度第13回教職会議
- 3月下旬 『令和5年度 教職課程自己点検・評価報告書』公開
- 2024年4月『教職課程アクション・プラン』公開

IV 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 加計学園					
大学院・研究科名 岡山理科大学大学院 理学研究科、工学研究科、総合情報研究科、生物地球科学研究科					
専攻・コース名 応用数学専攻、化学専攻、応用物理学専攻、総合理学専攻、生物化学専攻 臨床生命科学専攻、動物学専攻、応用化学専攻、機械システム工学専攻、電子工学専攻 情報工学専攻、知能機械工学専攻、建築学専攻、情報科学専攻、生物地球科学専攻					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					82
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					64
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					9
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					3
④のうち、正規採用者数					1
④のうち、臨時的任用者数					2
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	113	60	34	3	
相談員・支援員など専門職員数 3名 (教職支援センター；非常勤含む)					

VI 岡山理科大学の自己評価基準項目

基準領域		自己評価基準項目	
基準領域 1	教員養成に対する理念・法令、設置の趣旨教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みに対する評価	基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有状況	<p>① 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、教員免許法と教職課程認定等の法令・制度等により求められている事項の遵守状況を公表している。</p> <p>② 教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。</p> <p>③ 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。</p> <p>④ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。</p>
		基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫状況	<p>① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。</p> <p>② 教職課程の運営に関して全学組織教職支援センターと学部（学科）の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。</p> <p>③ 教職に関する適切な履修指導を行う全学的な「教職支援センター相談室」と「GIGAスクール構想」の実践的指導力の基礎を育成するためのICT教育環境等の教職課程教育を行う上での施設・設備・専任教員が整備されている。</p> <p>④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）やSD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みと連携しているPDCAを展開している。</p> <p>⑤ 教職課程に関する情報公表をホームページと同窓会誌「加計教育『道』」等で行っている。</p> <p>⑥ 全学組織教職支援センターと教職課程認定を受けた学部（学科）とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、させようとしている。</p>
基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援に対する評価	基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成状況	<p>① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。</p> <p>② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。</p> <p>③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。</p> <p>④ 「履修カルテ」を活用して学生の適性や資質に応じた教職指導が毎年学期ごとに適切に行われている。</p>
		基準項目 2-2 教職へのキャリア支援状況	<p>① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。</p> <p>② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援をキャリア教育センター、学習支援センター、教職支援センター相談室等で組織的に行っている。</p> <p>③ 教職に就くための各種情報を適切に教職支援センター相談室と学部・学科、教職オリエンテーションと教職関連科目の講義等で提供している。</p> <p>④ 校長や教頭、主幹教諭等および教育行政経験の実務家教員を専任の教育講師として配置するなどして、教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。</p> <p>⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を同窓会や各教育委員会と図っている。</p>
基準領域 3	適切な教職課程カリキュラムに対する評価	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施状況	<p>① 教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の理念を具現する特色ある教職課程教育を行っている。</p> <p>② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。</p> <p>③ 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。</p> <p>④ 今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。</p>

		<p>⑤ アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。</p> <p>⑥ 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。</p> <p>⑦ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。</p> <p>⑧ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。</p>
	<p>基準項目 3-2 実践的指導力養成と 地域との連携状況</p>	<p>① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。</p> <p>② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。</p> <p>③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。</p> <p>④ 大学ないし全学組織教職支援センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。</p> <p>⑤ 全学組織教職支援センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。</p>